

科目名	老年看護学	単位 (時間)	5(180)	28・29期生	DP	
担当講師名	専任教員 他			1～2年次	1・2・3	
科目設定理由	<p>日本の高齢者は年々増加し、平均寿命は男女とも80歳を超えて世界トップレベルとなった。このような高齢化の進んだ日本の医療状況では、看護の対象は圧倒的に高齢者が多い現状である。老年看護学は、家族を含めた高齢者が健康を維持・回復し、その人らしくより良く生き生きすることを支えることにある。老年看護には、高齢者と家族一人ひとりの人生を念頭に置き、多様な健康状況や生活の場の広がりに対応できる能力が求められる。また、老年期の人々は、それまで生きてきた生活習慣や豊富な経験などが要因となり、個人差が大きい。疾病や障害を持ちながらも自己決定して日常生活が送れるよう、高齢者とその家族との関りを学び、老年看護に必要な社会サポートについても学べるように科目設定をした。</p> <p>老年看護学概論では、加齢に伴う身体的・心理的・社会的側面の変化の特徴や生活の視点から対象を理解し、看護につなげることを学ぶ。また、高齢者の保健・医療・福祉について理解し、老年期にある人々と家族への看護を学ぶ。</p> <p>老年看護援助論Ⅰでは、老年期の主な疾患と症状に対する理解を深めるとともに、健康障害に応じた看護について学ぶ。</p> <p>老年看護援助論Ⅱでは、疾患や障害を持ちながらも高齢者がその人らしく生活することができるように、その人のもてる力を大切に支援する看護展開の技術を学ぶ。</p>					
科目構成	科目名	老年看護学概論	老年看護援助論Ⅰ	老年看護援助論Ⅱ		
	単位時間	1単位 30時間	1単位 30時間	1単位 30時間		
	学習範囲	1. 老年期の対象理解 2. 加齢に伴う機能の変化 3. 高齢者をとりまく社会 4. 老年看護における倫理的課題 5. 老年看護における理論・概念 6. 療養の場の移行期における支援	1. 健康障害のある高齢者の捉え方 2. 健康障害のある高齢者の主な疾患と症状の看護	1. 老年期にある患者への看護展開の技術		
	科目名	成人・老年看護学実習Ⅱ				
	単位時間	2単位 90時間				
	実習のねらい	<p>成人・老年看護学実習は、成人看護学及び老年看護学それぞれの学習を基盤にし、成人期から老年期までの患者とその家族を対象として、急性期及び慢性期の看護を学ぶ。</p> <p>成人・老年看護学実習Ⅰでは、周手術期にある対象が受ける身体及び精神面への影響を理解し、回復を促すための看護ができることを目的とする。</p> <p>成人・老年看護学実習Ⅱでは、慢性的な健康障害をもつ対象の思いを尊重しながら、生活の質を考慮した個別性のある看護ができることを目的とする。</p> <p>高齢者は、これまで築いてきた生活史や生活習慣などにより、個々の価値観などが異なるため個性が大きく、複数の疾患を抱えながら日常生活を送っているという特徴がある。加齢に伴う身体機能低下や健康障害の影響をとらえ、疾患の治療や処置が及ぼす生活への影響や合併症を予測して看護する必要がある。また、高齢者やその家族が望むよりよい生活を送るためには、退院後の生活の場の選定や家族や地域サポートによる介護など、施設を含めた在宅での生活に向けて退院支援や調整が必要となる。高齢者とその家族の思いに寄り添い、高齢者のもてる力を活用して、生活機能の回復・維持に向けた看護の実践が求められる。</p> <p>以上のことから、老年看護学としては成人・老年看護学実習Ⅱを科目として位置づけ、実習を展開していく。</p>				